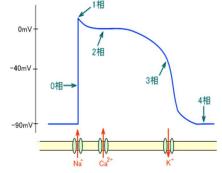




だいぶ続いたので、心臓の話を一つ。 California 州ハリウッド、サンセット大通りに世界的に有名なクラブ「ウイスキー・ア・ゴーゴー」があります。 もちろんゴーゴー発祥の地です。 ここに通った、ロスアンゼルス在住で遺伝学を研究する医師、William Kaplan は果物ハエ(fruit fly, ショウジョウ蠅、ホモ男の意もある:世代交代が速いので遺伝の研究に使われる)をエーテルで麻酔すると、突然仰向けにひっくり返り、四肢を天井に向けてゴーゴー・ダンスを踊る個体が何匹かいるのに気づき、この現象をエーテル・ア・ゴーゴーと呼び、個体を shaker mutant(震える変異体)と命名しました。その後の研究でこれが K+チャンネルの異常によることがわかり、hERG(human Ether-a-go-go Related Gene:ヒト・エーテル・ア・ゴーゴー関連遺伝子)と命名され、心筋活動電位の再分極を担う、カリウムイオンチャンネル K、11.1 をコードする遺伝子と判明しました。 ヒトの hERG 異常は 1/5000 人程度存在しハエのように go-go は踊りませんが、ECG 上 QT 延長症候群(long QT syndrome: LQTS)を示しマクロライド、向精神薬で簡単に心室細動を起こし突然死します (QT 時間が0.46 秒以上、または RR 間隔で補正した QTc 時間では 0.44 秒以上)。 心室筋細胞は 0 相で Na 流入、2 相で Ca 流入 (プラトー形成後 Ca

チャネルは不活性化)3相で K が流出して再分極、活動電位が終了しますが、K の流出が障害されると活動電位が長びき QT 延長を起こします。hERGの逆説的 K 依存性のため、血中 K 濃度を 4.5 以上の高めに保つと安全性が高まることが知られています。 心電図は時間についての情報は安定ですが、振幅についてはほとんど手相を見るようなもの



で単純経験のみ。 米国の教科書では狭心症は ECG ではなく PET で心筋が持続的 にブドウ糖を代謝することで診断します (CMDT, p340)。 <mark>心電図ではぜひとも QT < 0.5s</mark> <mark>を確認してください</mark>。 心室筋と異なり刺激伝道系では電位が小さく単純で K と

Ca が主で Na は関与しません(松田幸次郎 et al.)。
ですから高 K 血症で伝道障害があれば、あまり考えず
カルチコールをプッシュします。 同じ理由でカル
シウム拮抗剤(高血圧薬)や高 K 血症は簡単に(房室)
ブロックを引き起こすので注意が必要です。(現在 FDA は全ての新薬に hERG 由来タンパク質との結合のデータを要求するようになりました)

